



# 15.陸の豊かさも守ろう

## 「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟

「30by30アライアンス」とは、ネイチャーポジティブ\*実現に向けて、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

30by30達成に向けた取り組みをオールジャパンで進めるため、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に、慶應義塾も2023年5月に加盟しました。

生物多様性モニタリングを実施し、エビデンスに基づいた自然保護を実践していきます。

※ 日本語で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。  
(環境省ホームページ <https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/eye/20240214.html>より)



## みなさんmiraiプロジェクト

「みなさんmiraiプロジェクト」は、最大規模の慶應の森がある南三陸町(宮城県)において、南三陸「で」・「から」・「と」学ぶ、すなわち、震災を乗り越えて様々な問題に立ち向かっている現地の方々から学び、さらに日本・世界へと視野を広げて、未来に活かす知見を現地の方と交換する、学びの循環をつくらうとする取り組みです。研究領域・所属キャンパスの垣根を超え、多様な学生や教員が参加しています。

9月8～10日に、第一期生による合宿を行いました。塾生20名と代表の経済学部 津田真弓教授を中心とした教職員7名が、山主として南三陸町の木材の世界的FSC認証にも関わっている慶應の森を軸に、町のバイオマス構想・木材(南三陸杉)・漁業(養殖)・防災(避難所運営)と、南三陸町の方々の試みや経験を学びました。

## シンポジウム「海と陸の豊かさー地球環境を考えるー」開催

自然科学研究教育センターは、地球環境を研究している4名の研究者を招き、2023年12月2日にシンポジウム「海と陸の豊かさー地球環境を考えるー」を開催しました。シンポジウムでは、神奈川県三浦半島にある小網代の谷(浦の川流域)での保全活動の現状や課題、海洋プラスチック研究、安定同位体分子の計測による環境理解、環境問題における国際法の役割について、それぞれの研究者が講演した後、質疑討論が行われました。

## 受水槽を木槽に更新

志木高等学校の受水槽を木槽に更新しました。木製の受水槽は、耐久性・耐震性・抗菌性に優れているだけでなく、製造過程でもCO<sub>2</sub>排出量が非常に少ないことで地球温暖化防止に伴う温室効果ガスの削減に結びつき、環境性にも優れています。また、木槽材は基本的に自然木と付属品の鋼材に大きく2種類に分類することができ、経過年数により解体更新した木部はウッドチップなどに再利用したり、鋼材なども再形成して新たな製品として利用することもできるなど、各部材のリサイクル性も高い特徴があります。

今回更新した受水槽は、キャンパスのある埼玉県産の杉を使用することで、「地産地消」にも貢献しています。



## 「サステナブルキャンパスプログラム」始動

慶應義塾湘南藤沢キャンパス(SFC)は、SFCの全ての部門(総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、湘南藤沢中等部・高等部)が協働してサステナブルなキャンパスの実現を目指す、「サステナブルキャンパスプログラム」を始動しました。プログラムでは、それぞれ「資源循環」、「自然環境」、「カーボンニュートラル」、「健康と地域」、「食と農」をテーマとする5つのプロジェクトと、湘南藤沢高等部で取り組まれてきた環境プロジェクトが、相互に連携しながら進められています。

### 2023年度に実施した主な活動例

- 古紙回収の開始、学内カフェでのリターナブル容器の導入
- キャンパス内の生物相モニタリングと侵略的外来種の除去
- 営農型太陽光発電のSFC内外への導入可能性の検討
- 株式会社スタジオスポビー(<https://spoby.jp/index.html>)が開発したエコライフアプリ「SPOBY」を用いた行動変容実験
- 遠藤・御所見地区における米と野菜の生産
- 活動をまとめた冊子の作成

## エシカル消費に対応した「環境に優しいあか牛」の生産と産学官金の生産者支援を開始

メディアデザイン研究科は、熊本県畜産農業協同組合連合会、株式会社グローバル・クラウドファンディングと共に、2023年1月16日に「南阿蘇村 草原再生・あか牛復興プロジェクト」を熊本県南阿蘇村で発足しました。そのプロジェクトの一環として、熊本県下の生産農家と協力し、牛由来メタンガス発生抑制が見込まれる「ルミナップ」を与えた環境に優しいあか牛の生産を開始しました。

また、新たな販路の創出に向けて、エシカルな取り組みにチャレンジする生産農家の直接支援と、ソーシャルインパクトを目指す、投資型クラウドファンディングも開始しました。これにより、企業や消費者が生産の段階から産地を応援し、あか牛を購入することが可能になります。

本プロジェクトは、新たな価値観であるエシカルなあか牛の生産を資金面から支援しつつ、購入体制の強化を通じた安定的供給を確立することで、持続可能な畜産業と肉食文化の維持を目指す事を目的としています。

## 塾生会議プロジェクト始動

「2022塾生会議」の提言を受けて7つのプロジェクトが採択され、2023年度に具体的な取り組みを実施しました。

### • 慶應の森プロジェクト

慶應義塾が保有する森林に関する情報の収集と公開を実施し、慶應の森の周知と森林の利活用を目指すプロジェクトです。慶應の森の自然共生サイト\*への認定を見据えて、生物多様性保全や温室効果ガス削減等の社会貢献事業の実践も目指します。2024年1月に南三陸の志津川山林、2024年3月に三重県の志木の森深山で、森林のCO<sub>2</sub>吸収量を測定する現地調査を実施しました。今後は、自然共生サイトへの認定と、本プロジェクトや保有林の情報を積極的に外部に発信することで、全国的に30by30目標そのものの認知度を高め、ネイチャーポジティブに貢献することを目指しています。

※「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する区域。  
(環境省ホームページ <https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/kyousei/>より)